

まちのうごき

11月20日

東京都墨田区

墨田区と災害時の協定を締結



東京都墨田区とは、令和元年度から食を通じた都市と農村の地域間交流をしています。昨年は墨田区長が芽室町に来られ、芽室町の大規模農業、食の生産現場を実感していただきました。墨田区長と芽室町長の対話の中で、今後は食に限らず、できることから交流を進めていきたいという思いを共有しました。

その思いをもとに、墨田区と芽室町は災害時ににおける食料品や生活必需品、人員の派遣など相互援助の協定を締結し、11月20日手島町長の上京に合わせ墨田区長を表敬訪問しました。今後も墨田区との地域間交流は、町民の方の参画もいただきながら、双方にとって意味のある交流に広がっていきます。

11月13日

安田繁信さん

100歳おめでとございます



100歳を迎えられた安田繁信さん(幸町)に、芽室町から感謝状と敬老祝金が贈呈されました。

安田さんは、若い頃は木工所で働いており、とてもまじめな性格で、長寿の秘訣は、食事は好き嫌いなく3食しっかり食べること、たばこを吸わず、お酒を飲まないことだそうです。

現在もご自宅で生活されており、カラオケが一番の楽しみで、柏樹学園では最年長でカラオケを披露したとのことでした。

安田さん、これからも元気で過ごしてください。

『農畜産物の生産見込みに ついて』

芽室町長 手島旭



個人差はあると思いますが、私にとっては、本当にあつという間に12月、そして年末を迎える感覚があります。みなさんはいかががでしょうか? 今月も先月号に続き農業関連の話題となります。すが、先月22日に芽室町の令和6年産農畜産物生産見込みが公表されました。結果的には畑作部門が約279億7千万円、酪農・畜産部門が約103億円、合計約382億7千万円で史上最高の生産額となりました。しかし、物価高騰、肥料、飼料、燃料等の経費がかなり増加しており、所得に結びついていない傾向で、「史上最高の生産額も」実感が沸かない」というのが生産者のみなさんの感想のようです。今年是比较的順調に作業が進みましたが、猛暑の中でこの生産額を記録したことは生産

者の皆さんのご尽力だと感謝したいと思えます。ただし、生産額と所得とは一概に一致しないものでもあります。物価が高止まりしている中、様々な食品の原材料として使用されることが多い農畜産物は、なかなか価格に転嫁しにくい、あるいは転嫁が遅れてしまいう傾向があります。加工食品などの製品価格は高騰しますが、その原材料にも適正な価格設定をしていく必要があると思います。現在国では「食料・農業・農村基本法」の改正に基づき「食料・農業・農村基本計画」を策定中であり、日本の食料自給率をどう考えていくのか? あるいは農畜産物の適正な価格設定などについても議論が進められています。日本を支える食料基地として、また芽室町における産業・雇用の基盤となる農畜産業について、その価値と役割を明確に打ち出していきたいと思えます。その上で未来に続く芽室町農業を町行政としても支えていきたいと考えております。